

# 設立趣旨書

東日本大震災により神奈川県内に避難されている方々が主体的に生き生きとした生活と笑顔を取りもどせるように 私たちはその“小さなお手伝い”をします

2011年3月11日に発生した東日本大震災から3年余り経過していますが、東北3県からはいまだに約30万人の方々がふるさとを離れ、避難生活を送っています。神奈川県内には約2,300名の方々が避難されており、その中でも、原発事故の影響で避難されている方々が約8割を占めていると言われています。何年待てばふるさとに帰れるのか — 心身をさいなむ苦痛は想像を絶します。長引く避難生活による健康状態の悪化など、震災関連死も約2,700名に上るとの報道もなされています。

マスメディアでは復興の話題ばかりが取り上げられ、「現地はもう復興に向かっているのだ」と人々の関心は薄れ、復興支援ボランティアなどの活動も資金的・人的に縮小する一方ですが、人知れず、先の見えない苦難を抱えている方々は決して少なくないのです。少しでも支えとなれるように、神奈川において私たちに何ができるのかが、今こそ問われているのではないのでしょうか。

避難されている方々が慣れない土地で孤独に落いることなく、今このときを少しでも明るく前向きに暮らしていくための“小さなお手伝い”の継続がますます重要になってきています。私たち「かながわ避難者支援ネット」は、思いを同じくする者があつまり、避難生活を送られている方々と一緒になって活動することを目指し、平成25年6月に任意団体として結成しました。

私たちが目指すのは、避難されている方々同士がつながり、語り合い、ともに歩むこと。そしてその交流を支援することです。“ふるさと”との絆を新たにすると同時に、生活の場となる神奈川県などの地域住民とも交流していただき、避難されている方々が主体的に生き生きとした生活と笑顔を取りもどすことを目的にしています。

そして、以上の目的を達成するために「支援する者」「支援される者」という立場を超えて共に様々な課題と問題に取り組むことをめざして会の名称を「かながわ避難者支援ネット」から「かながわ避難者と共にあゆむ会」(平成25年10月1日)と変えました。

この間、「ふるさとコミュニティinかながわ」「被災地町別交流懇談会」「かながわ・あづまっぺお茶っこ会」「福島ふるさとバス便」などの事業に取り組んできました。

今回 それらの事業を、同じ気持ちを持つ神奈川県民及び避難者の方々と連携し、神奈川県及び関連機関、被災地自治体、市民団体等と共に支援活動を計画的に推進していくために、特定非営利活動法人として活動することを目指していきたいと思えます。

平成26年 7月 19日

法人の名称 特定非営利活動法人 かながわ避難者と共にあゆむ会

設立代表者 鈴木 實